

# ステロイドと副腎不全

- ステロイド薬を長期間内服していると、体内で産生されるコルチゾール(ステロイドホルモン)が抑制されます。
- そのため突然、内服しているステロイドを突然、大幅な減量/中止するとステロイド不足(副腎不全)が起こります。
- ステロイドが足りないと倦怠感や食欲低下、関節痛、嘔気/嘔吐など様々な症状が出現します。
- 自己判断で中止する前に、もしくはなんらかの理由でのめなくなった時はすぐに主治医に相談ください。

## □ 原因

- ステロイドの長期内服では、体内のACTHというコルチゾール産生刺激ホルモンが抑制され、副腎が委縮して必要なコルチゾール(ステロイドホルモン)が分泌できない状態になります。
- そのためなんらかの理由で突然の内服中止、大幅な減量、コルチゾール(ステロイドホルモン)の分泌が必要な状況(胃腸炎や風邪、手術など)になった時はステロイド不足になります。

## □ 症状

- ステロイドが足りないと、倦怠感、食欲低下、嘔気/嘔吐、発熱、関節痛が出現することがあります。
- 血液検査では、低血糖、低ナトリウム、好酸球増多などが見られます。
- 血圧が低下することもあり注意が必要です。

## □ 対策

- 突然ステロイドの内服をやめない。
- 減量する時は少しずつ行う。
- 胃腸炎や風邪等で内服できない時は点滴で補充する。
- 手術前後には点滴で補充する。

- ステロイドを1-2週間程度内服しても副腎不全が起きることは基本的にはありません。
- 発症には、ステロイドの用量、内服期間、コルチゾールの基礎分泌能、ストレスの程度などが複合的に関与しています。

